

2月は逃げる月！

「1月は往ぬる 2月は逃げる 3月は去る」とよく言われますが、新しい年を迎えたばかりなのに、もうすでに2月も半ば、3学期も約半分が過ぎてしまいました。3学期は、進級や進学に向けて1年間のまとめをする時期であり、子どもたちの成長を感じる機会も数多くあることでしょう。慌ただしさの中にあっても、1日1日を大切に過ごしたいものです。

◆小中一貫教育担当者研修会の開催◆

1月19日（水）に須賀川市小中一貫教育担当者研修会を開催し、稲田学園の実践発表、講話、グループ協議が行われました。

中学校区ごとの実践内容の紹介や振り返りにより、地区の実態に応じた特色ある取り組みを共有し、今後の方向性を確認することができました。

講話の中では、学力に関して下記のような話もありました。

子どもの頃に遊んだ「かくれんぼう」は、大人になると遊ばなくなる。なぜなのか。考えるところを601字以上1000字以内で論じなさい。

(有名私立大学入試問題より)

論文の書き方は学習できますが、内容については自分自身で考えなければなりません。これからの試験内容はさらに変わってきます。

忍耐力を持たなくてはならないようでは、教育者として落第である。愛情と喜びを持たねばならない。(ヨハン・ペスタロッチのことば)

スイスの教育家ペスタロッチは、たくさんのお言葉を残しており、一度はその名言に感得した経験もあることでしょう。

教師に忍耐や根気が必要なことは言うまでもないことですが、それ以上に大切なことは、教え子たちへの愛情であり、教える喜びであると言えます。

我が国にも、「和顔愛語」という言葉がありますが、まさに教育の営みの原点は、愛情と教育に対する情熱です。

毎日の教育指導の中で、心にとめて教壇に立ちたいものです。



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）R3. 1. 26 から一部抜粋

新学習指導要領の着実な実施とICTの活用が求められています。

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
◆GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
◆その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- ◆「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
◆集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

子どもに「やる気」を促すことば！

ある中学校で、子ども達に「小学校から中学校までに、やる気が出たことばにどんなのがありますか？」と質問したところ、

下記のような結果に分類されました。何気なく発する教師のことばには大きな影響力があります！

①抽象的ながら励ましの心が伝わったことば

「がんばれ、やる気出せ」「精一杯發揮して絶対勝とうな」

「努力すればきっといい結果が出る」など

☆その声と表情やしぐさが一つに溶け合うともっと効果を！



②具体的な長所などを指摘したことば

「あなたは、足が速いな」「あなたは、勉強できるな」「今のはいいシュートだね」「いつも字がうまいね」など

☆その子だけのためのことばである点が強く訴える力を發揮する。どの子にもかけられるように、個々の長所発見に努めたい。

③自分が期待されているということがわかることば

テストの点数が悪かった時「時間がなかったんだね。前の方は全部あっているし、あなたは力があるんだよ」

「君がいるとクラスがまとまるんだよな」など

☆先生に期待されているという思いは、確かな手応えとして、その子の胸に生きその後に大きな影響力を持つ。

④タイミングよくかけられた温かいことば

絵を描いている時に「いい絵ができそうだね」

引越して落ち込んでいる子に「あなたの笑顔はとっても素敵！周りも明るい気持ちになれるから大丈夫だよ」など

☆励ましのタイミングが重要！存在感を実感させるようなことば・・・。

⑤理由を添えた精密な表現の励ましのことば



「人にはそれぞれ能力がある。できないことがあってもいい。一生懸命努力すれば」「先輩たちも初めての人が多いから大丈夫だよ」「人は、勉強の成績だけでいいとか悪いとか決められないものだ」

☆そのことばの底にその人の哲学があると言えるだろう。教師の温かな心をそっと表現したい・・・。

他責思考はNG思考！

「他責思考」とは、何か物事がうまくいかない時に、その原因を自分ではない他者などに求める思考のことです。どんな職業においても、責任を誰かのせいにするということはありがちですが、教師の場合について例をあげてみます。「テストの点数が悪いのは子どものせい？」「高学年になると発言しないよね」「子どもがあいさつしないのは子どものせい？」、保護者に対して「あの親はモンスターペアレントだから仕方ない」など。結論から言えばNG思考となります。すべての原因を相手のせいにして、自分には責任がないと考えてしまい、教師自身が自分の指導をわざわざ省みる必要などないという思考が生まれてしまいます。



うまくいかなかった時、「一生懸命指導したのに」「私は子どものためを思って指導したのに」との思いが頭をよぎります。それをグッとこらえて、「自分の指導が良くなかったのだ」と思える教師にだけ、伸びるチャンスと資格があるのです。「一生懸命指導したのに」うまくいかないのは、その「一生懸命」を向ける方向性がよくなかったのではないかと自分の指導を省みるのと、自分は「一生懸命」指導したのにうまくいかないなんて、子どもが悪いんだと思ってしまうのでは、後々大きな差となってきます。